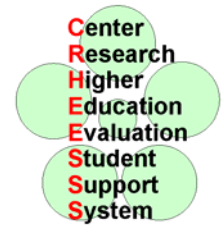


週刊センターニュース No.75



第75号(2005年9月5日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

第8回金沢大学教養教育全学研究会のご案内

主催: 金沢大学共通教育機構・金沢大学大学教育開発・支援センター

テーマ: 「新しい時代の初年次教育 導入教育、補充教育を考える」

日時: 平成17年9月8日(木) 13:00~17:00

場所: 石川県立生涯学習センター(石川県広坂庁舎)

プログラム:

講演1 「長崎大学の初年次少人数セミナー(教養セミナー): 転換教育としての役割と今後の展開」 高橋正克(長崎大学大学教育機能開発センター副センター長)

講演2 「大学生のためのスタディ・スキルズ教育 教材開発から運用まで」

上村和美(関西国際大学経営学部助教授)

報告 「金沢大学における初年次教育の改革について」

西山宣昭(金沢大学大学教育開発・支援センター助教授)

パネルディスカッション「初年次教育を考える」

司会: 堀井祐介(金沢大学大学教育開発・支援センター助教授)

共同学習会のご案内

第87回 日時: 9月14日(水) 16:20~17:50

会場: 総合教育棟南棟2階 大会議室

報告者: 堀井祐介(大学教育開発・支援センター 教育支援システム研究部門)

題目: 「企業の人事評価に学ぶ教員評価のコツ - 第3期大学経営革新フォーラム第3会合参加報告 - 」

第88回 日時: 9月22日(木) 13:30~15:00

主会場: 金沢大学角間キャンパス 総合教育棟北棟5階D10示範教室...

テーマ: 「アカデミック・ハラスメント防止のために」

講師: 吉野 太郎 (関西学院大学総合政策学部専任講師:

NPO アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク 理事)

趣旨: 「アカハラ」による懲戒についての報道例を挙げるまでもなく、どの大学でも「アカハラ」問題は顕在化しつつある。この問題は、ひとたび起きてしまうと、当事者が円満解決とみなすような事例は少ない。「アカハラ」の未然防止に徹底して努めねばならないことを大学人すべてが認識すべきである。今回、すでに神戸大学や兵庫教育大学等でも講演を担当してこられた吉野先生を講師にお迎えした。多くの教職員、学生・院生の参加を期待する。

主催: 金沢大学大学教育開発・支援センター

共催: 金沢大学ハラスメント防止委員会、富山大学セクシュアル・ハラスメント等対応委員会、北陸先端科学技術大学院大学総務企画部

次の会場にも、**双方向遠隔授業システム**を用いて送信します。質疑応答を含め、主会場と同様の受講が可能です。(双方向遠隔授業システムについては、金沢大学共通教育機構<http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/kiko/kiko.html>をご参照ください。)

《送信会場》金沢大学医学部保健学科大学院棟大講義室(5号館5104号室)、富山大学、

山口大学における教育改善と認証評価への対応

8月5日、立命館大学大学教育開発・支援センター主催の「シラバス検討に向けた学習会」に参加した。シラバスの改善の近年の流れや成績評価との関連についての話を期待して参加したが、講師として招かれた山口大学大学教育センターの沖裕貴教授は「認証評価におけるシラバスの意義」について講演され、しかしその内容は山口大学の教育改善全般の現状と認証評価対策との関連に関するもので、貴重な他大学の事例を聞くことができた。

シラバスも含めカリキュラム、授業目標の公開、授業評価、FD活動など山口大学における教育改善の取り組みのすべてが、認証評価の評価基準に対応づけられ、整理されていた。大学評価基準（機関別認証評価）の基準1-1-「大学の目的として、教育研究活動を行うに当たっての基本的な方針や、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとする基本的な成果等が、明確に定められているか」を根拠として、教務委員会に対して各学部・学科の教育目標策定が依頼された。

基準9-1-「学生の意見の聴取が行われており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか」に対応して、学生授業評価と卒業時満足度調査が行われている。学生授業評価は6年前に始まり、昨年度より全学部で足並みを揃え、評価項目のコアの部分は全学部全授業（非常勤、ゼミ、学生履修者5名以下の授業を除く。）で共通化された。卒業時満足度調査は平成15年度から実施され、点数化された調査結果に基づいて各学部に対して改善の数値目標の提出が求められる。

基準9-1-「評価結果を教育の質の向上、改善に結びつけられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しや教員組織の構成への反映等、具体的かつ継続的な方策が講じられているか」を達成すべく、学部・学科ごとにカリキュラム・マップの作成とそれに基づく継続的な授業内容、教育目標の見直しが行われる。カリキュラム・マップとは行または列それぞれに学部・学科ごとのすべての授業の到達目標および学部・学科の複数の教育目標とを配置したマトリックスを意味しており、マトリックス全体の充足状況を全体から眺め、充足が不均一であれば各々の授業内容と学部・学科の教育目標との consistency が再帰的に見直される。従来は、授業担当者に一任されていた各科目の授業内容、成績評価基準が学部・学科の教育目標に照らして整合的、体系的であるかが常に問われることになる。一方、各学部・学科の教育目標も継続的に見直され、現在までに3～4回行われたとのことであった。さらに同基準9-1- に対応して、教員授業自己評価が実施されている。教員による自己評価の結果と上述した学生授業評価の結果を同時にWEB上に提示し、各教員の授業改善を促すとのことであった。

基準5-2-「教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか」、基準5-3-「教育の目標に沿った成績評価基準や卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されているか」に対しては、昨年度の教務委員会において、WEBシラバスを全学統一し、各科目の観点別到達目標の明示と、観点別成績評価基準の提示が求められた。

認証評価が driving force となった山口大学の教育改善の組織化と加速化について、以上のように詳細に説明がなされたが、質疑応答では、大学教育の中等教育化を示すものであり大学教育の本質を見失っているのではないかと、評価の前に学生のための教育改善という視点が希薄ではないかなど厳しい指摘がなされた。大学教育の本質とは何か、その教育効果を定量的に評価できるのかどうか、評価研究に期待される場所である。（文責 大学教育研究開発部門 西山）